岡崎市制100周年記念事業
岡崎まちものがたり

安藤川の改修

安藤川は河川延長 8.8km あり、流域面積は 15.98km^2 ある。安藤川の川幅は約 14m～35m となっており、全川において有堤河道である。川田橋（2km）の下流では、最大比高が約 4m となっている。河床勾配は、約 1/1,900 である。河道法面には植生がみられる。背後地については、水田地帯が広がっており、市街地が点在している。安藤川は岡崎市天白あたりから、六ッ美地区の田畑の小悪水を集め、悪水路となり矢作古川に流れている。1882 年（明治 15）の水害のあと、愛知県では、この難所を開拓するために悪水路の改修を行った。これが，安藤川第一期の改修工事であり、このときから「野川」を「安藤川」と改名した。安藤町の安藤川沿いには 2 つの記念碑が立っている。

1898（明治 31）年になり、大改修の協定ができ、安藤川悪水普通水利組合ができた。これ以来、安藤川の改修は着々と進められ、1900（明治 33）年に工事施工、1901（明治 34）年に竣工した。1912（明治 45）年にこのような大改修工事の竣工したことを、後の世に伝えるために、安藤地内に記念碑を建て、工事の沿革を記し、功績者である杉浦定吉をたたえた。

杉浦定吉は度量が広く勤勉で、村々に悪水排除の方法を主唱し、水路をつくることを郡村で協議していた。1898（明治31）年、水利組合委員会を設けたが議論は流れ、1900（明治33）年3月になってやっと議決し工事は着工した。定吉は率先して奮い立ち、一命を捨てる覚悟で、多くの困難を排して工事に責任を持って取り組んだ。その結果、改修工事は1901（明治34）年3月に竣工した。工事の内容は、水路を改修し、その幅を広げるもので、その範囲は安藤川の上流の多くの地域にまたがっていた。それはたいへん大がかりなもので，次の改修した水路の長さと幅員が物語っている。定吉は、私事をなげうって公益のために尽くし、自ら計画を立て、それを成し遂げた。定吉は1910（明治43）年1月3日病死したが、水路沿いの村は定吉への慈愛や悲嘆から、定吉の業績を永遠に伝えるため碑を建てた。

もう一つは、昭和になってからの改修工事の記念碑がある。安藤川普通水利組合は、1930（昭和 5）年事務所を中島町に移して、安藤川改修を内務省に陳情した。その結果、県土木部直営で1943（昭和 18）年に工事を着手した。1944（昭和 19）年に東海地震に遭遇し、1945（昭和 20）年には三河地震に遭遇した。しかし、農兵隊等の応援により工事が続行された。震災被害状況を建設省に陳情した結果、従来の計画を大幅に変更したものの 1951（昭和 26）年に幹線第一期工事が完成した。1961（昭和 36）年には伊勢湾台風の復旧工事である幹線第二期工事が施工された。記念碑は 1966（昭和 41）年に建立された。

安藤川　三国橋付近

安藤川　野島橋付近

安藤川改修記念碑群 安藤町 20150726

安藤川改修記念碑
1912(明治45)年建立
20150726

安藤川改修記念碑
1966(昭和41)年建立
20150726

本項は以下の資料を引用している。

[六ッ美南部の歴史・文化を紐解く]

著者　　岡崎市立六ッ美南部小学校　高須　亮平
発行日　2012（平成 24）年 3 月 31 日　初版発行
印刷所　ブラザー印刷株式会社

[碑は語る岡崎平野の治水と農業]

著者：　渋谷　環
発行者：渋谷　環
発行日：2005（平成 17）年 9 月 19 日
印刷所：ブラザー印刷（株）
安藤川（P39）、広田川（P39、P159）、占部用水（P45）、高橋用水（P45）、
耕地整理（碑文訓読 P64）、悠紀斎田（P129）、菜種栽培（P155）、
各種記念碑（P174）の記述がある。